

別記
第3号様式

京都府教育委員会教育長 様

令和 8年 3月 5日

コミュニティ名 Locollabo (ロコラボ)
代表者所属名 京丹後市立 弥栄小学校
代表者職・氏名 教諭 中矢敬太

京都府若手教職員学び合いのコミュニティ育成支援事業報告書

次のとおり報告します。

1 コミュニティ名

Locollabo (ロコラボ)

2 研究テーマ

地域教材と子どもの学びをつなぐ授業づくりについて

3 研究の目的

「総合的な学習の時間」を中心に、子どもたちが地域の良さに気づき、誇りをもてるような地域教材の活用の仕方や授業・支援のあり方を明らかにする。

4 研究内容及び期待される研究成果

本研究を通して、地域と学校をつなぐカリキュラムの作成やネットワークの整理・構築に取り組むことで、地域と学校が一体となって子どもを育てる環境整備及び町の活性化が進むのではないかと期待される。

5 研究成果の波及方法

地域の方々を対象とした公開授業の実施
研究の成果をレポート等で発信

6 研究(活動)実績*

年月	研究(活動)内容(具体的に記載)	活動場所
令和7年6月 11日	EDIX 大阪 視察(Google Workspace for Educationの高度な活用についての視察を行った。)	インテックス大阪
令和7年11 月27日	京丹後市保幼小中一貫教育研修会 (京丹後市が目指す探究的な学びの実践校の公開授業)	京丹後市立 大宮中学校

7 予算執行状況

- (1) 旅費は、旅費執行状況報告書に記載のとおり
- (2) 図書については、受領書のとおり

8 他校へ勧めたい実践又は他校へ呼びかけたい共同研究(できるだけ具体的に)

テーマ	地域教材と子どもの学びをつなぐ授業づくりについて
育てたい資質能力	・コミュニケーション能力 ・デザイン思考による課題解決力 ・社会的当事者意識 ・レジリエンス

<p>実践又は研究の 具体的内容</p>	<p>1. 実践の核:探究コーディネーターをハブとした「外部共創」</p> <p>本実践では、学校内だけで完結しがちな地域学習を社会へ開くため、探究コーディネーターを「教育課程のデザインパートナー」として位置づける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● GT(ゲストティーチャー)の最適化: 児童が抱いた素朴な問いに対し、単なる知識人ではなく、情熱を持って生きる「街のプロ(移住者や実業家)」をコーディネーターがマッチング。児童が「この人のために」と思える、顔の見える関係性を基盤とする。 <p>2. 「プロセス」を重視したしなやかな学びの設計</p> <p>成果物の完成度よりも、社会のリアルな壁にぶつかり、作戦を練り直す「試行錯誤」の過程に重きを置く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 「中間フィードバック」の常態化: 発信の準備の途中で何度も GT の元へ足を運び、意見を仰ぐ場を設ける。プロからの「実現は難しい」といった厳しい指摘を、児童に「改善のチャンス」と捉えさせ、思考をより柔軟かつ論理的に深めさせる ● 教室を飛び出す自発性: 継続的な対話は、授業の枠を超えた交流を生む。地域全体が「自分たちを認めてくれる居場所」へと変容し、心理的安全性を生む。 <p>3. 学びの成果と「当事者意識(エージェンシー)」の変容</p> <p>本実践を通じて、児童の中に「自分たちの提案で社会は動かせる」という確かな手応え(自己効力感)が芽生える。</p> <p>他者意識の芽生え: 地域の素材から、新しい価値を生み出そうとする過程で、自分勝手な思いつきではない、相手のニーズに寄り添う「誠実な他者意識」が育まれた。</p>
--------------------------	---